

## 「税金のループ」

弥富市立弥富中学校 3年 渡辺 人富弥

税金とは大人が払うもの。中学生の僕が関係しているのは、お菓子や文房具を買ったり友達と遊ぶ時のチケット代に含まれる、消費税ぐらいだろう。あとは住民税、固定資産税、所得税、自動車税など父が家計をやりくりし時期が来たら支払っている。僕も大人になったら、いずれ支払うことになるかと認識しているが、今の僕には、どこか違う話だった。

先日、自宅前の歩道が、数十センチ程陥没していた。大きな穴ではない。しかし、気付かず自転車で通ったら、タイヤがはまって衝撃が走るだろう。もしかしたらハンドルを取られて転んでしまうかもしれない。穴に気付かなかった歩行者がつかずいたり、それがお年寄りなら杖が引っ掛かったり、幼い子だったら大ケガに。夜はどうだろう、事故やケガに繋がるのが容易にたくさん想像できた。

母がちょうど税金を納めに、市役所を訪れた。ついでに「土木課」と言われる所へ、道路の陥没を伝えた。窓口では住宅地図で場所を確認してもらい、市役所を後にした。

その数時間後、市の職員さんが現場を見に来てくださり、危険を知らせる赤い三角コーンが置かれ、危険があると離れていても予測できるようになった。更に数日後、今度は工事担当の方が数名みえて、陥没していた穴は埋められ綺麗に修繕された。事故やケガの心配は数日でなくなり、安心して通行できるようになった。

母が納税に行き、道路の陥没について相談し、税金を使って工事がされた。このタイミングは偶然ではあるが、納税し、税金が使われている、ループを身近に感じた。

市役所で案内してくれた職員さん、窓口の方、工事の方々のおかげで安心して生活できるようになった。これらのループは、大切な税金で成り立っている。

歩道がきれいになって、事故やケガの心配はもうしなくても良い。納税は、僕らが安心して生活できることに繋がっているのだと思った。周りを見れば道路だけではない。信号や消えかかった横断歩道の整備、街灯や防犯カメラ、毎日通っている中学校や、ゴミ収集などの公共サービス。税金は、まだ納めていない僕にとっても身近な存在だった。

税金を納めなくてもよかったとしたら、家計を圧迫することはない。でも道路の修繕費は自腹になって家計を直撃するだろう。支払えなかったら放置され、横断歩道は消えていくだろう。

税金を納め、正しく使われる「ループ」があってこそ、僕らは安心して暮らせる。

目の前できれいになった道路を見て、遠い存在だった税金が、身近に感じるようになった。